

今月のみことば 2025年3月

キリストがよみがえらなかったとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。…もし私たちが、この地上のいのちにおいてのみ、キリストに望みを抱いているのなら、私たちはすべての人の中で一番哀れな者です。(コリント人への手紙第一15章14, 19節)

クリスチャンは、一番哀れな人たち？

皆さんにとって、クリスチャンの信仰は、とても不思議に映るのではないのでしょうか。約2千年前、無残にも、十字架で磔にされたイエス・キリストを救い主だと信じているのです。そんなことは到底受け入れがたいと感じるのが、ごく普通の感覚だと思います。

実は、イエス・キリストが十字架につけられた時に、弟子たちも、私たちと同じ反応をしたのです。彼らは信仰を保つどころか、身の危険を感じて逃げ出しました。そして恐怖にとらわれ、鍵をした部屋に閉じこもり、ついには、イエス・キリストと出会う前の生活に戻る準備を進めていました。



しかし、彼らに大きな変化が訪れます。逃げ出したはずの弟子たちが、突然、「イエス・キリストは復活した！」「この御方こそ救い主である！」という福音を、大胆に語り始めたのです。当時の状況からして、そのようなメッセージを発信することは、命の危険を伴いました。(実際、彼らの多くは殉教することになります)。彼らはそれも承知の上で、人生をかけて伝えていったのです。

皆さんは、弟子たちのことをどのようにお感じになりましたか？

もし、イエス・キリストの復活が無かったとすれば、彼らは本当に哀れな人たちではないのでしょうか。残念ながら、彼らの命がけの宣教も「空しい」ものと言わざるを得ません。現在、世界で20億人を超えると言われるクリスチャンたちの信仰も、すべて虚構に基づいた「空しい」ものということになります。ある意味で、聖書自体がそのことを認めているのです。

しかし、もし弟子たちが言うとおりに、イエス・キリストの復活が事実だとすれば、どうでしょうか。

まず何より、弟子たちが突然に迫害を恐れなくなり、大胆に福音を語るようになったことについて、最も納得できる説明となります。イエス・キリストが、本当に救い主であったことの証明となります。「死」という問題の最終解決が、この御方にあるということが分かります。そして、弟子たちのように、「死で終わりではない」という希望をもって、力強く歩んでいける道があるのです。

果たして、クリスチャンは本当に「一番哀れな者」なのでしょう。それとも、その逆でしょうか。その答えは、「イエス・キリストの復活は事実か」という一点に全てがかかっているのです。(H)